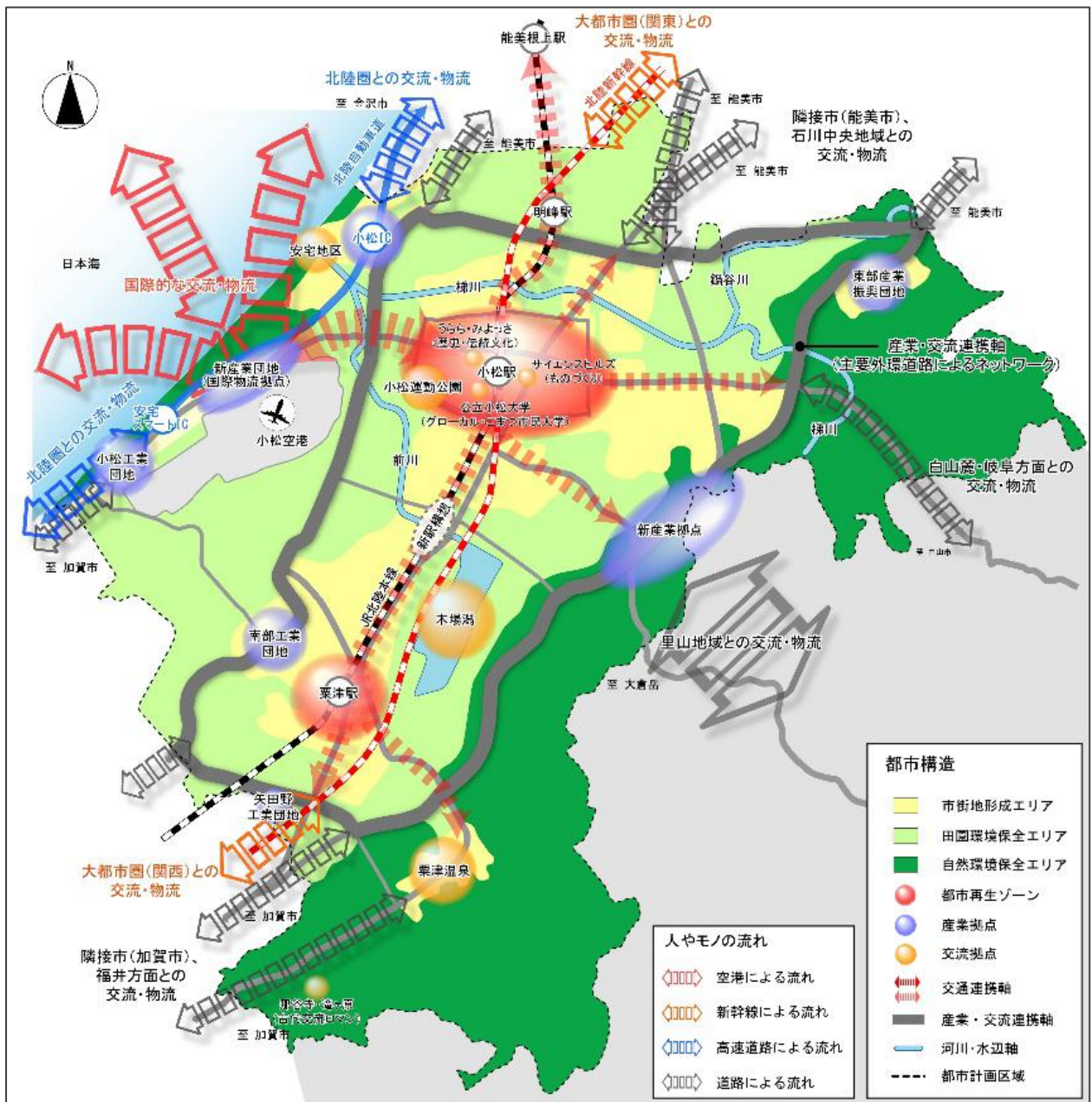


第4章 目指すべき都市の骨格構造と誘導方針の検討

(1) 都市の骨格構造

・小松市の骨格構造は、「小松市都市計画マスタープラン」の将来都市構造における「都市再生ゾーン」、「市街地形成エリア」、「交通連携軸」を基本的な考え方とし、交通結節点となる「小松駅周辺」を南加賀地域の中心にふさわしい「中心拠点」、「栗津駅周辺」を南部地区交流の核となる「地域拠点」として位置付け、まちなかの魅力・賑わいの創出を図るとともに、土地区画整理事業等により整備してきた市街地や、歴史文化がなど様々な資源がある古くからの市街地を結ぶ既存の公共交通ネットワークを活用し、生活利便性、地域コミュニティの維持・向上を図ります。

■小松市の目指すべき都市の骨格構造



(2) 都市機能及び居住の誘導方針

- ・将来の人口減少・長寿社会を見据えた「交通結節点での都市機能の維持・充実による魅力・賑わいの創出」、「市街地の暮らしやすさの維持・向上」、「市内公共交通の充実、利便性の向上」に向けて、都市機能及び居住の誘導、公共交通ネットワークシステムの充実を目指します。
- ・平成30年の公立小松大学の開学による学生の増加や、5年後の平成35年(2023年)の北陸新幹線小松の開業等を見据えた各種整備等の効果により、今後、社会人口動態の変化や魅力の向上が考えられます。そうした小松市の特性も踏まえて各区域を設定し、社会人口動態の変化に応じて、PDCAによる評価・管理を行いながら、区域の見直しも検討していきます。

都市機能の誘導方針

○交通結節点での都市機能の維持・充実による魅力・賑わいの創出

- ▶ 国際都市こまつ、周辺市街地の拠点として、交通結節点の小松駅、粟津駅周辺の賑わい・交流の創出、魅力・活力増進に向けた多様な施設の維持・誘導

・多様な機能が集積し、誰もがアクセスしやすい拠点となる区域

居住の誘導方針

○市街地の暮らしやすさの維持・向上

- ▶ 旧街道沿いを中心に形成された既存集落や幹線道路整備、土地区画整理事業等により整備されてきた住宅団地等における居住の維持と基盤整備の促進
- ▶ 歴史・文化が育まれた市街地を次世代へ継承していくための居住の維持・誘導
- ▶ 空き家・空地等の有効活用、先進的なICT活用での市街地の暮らしやすさの向上

・都市基盤が整備され、人口が集積している区域
・生活サービス施設が利用しやすい区域
・古くから歴史・文化が育まれてきた区域

公共交通における誘導方針

○市内公共交通の充実、利便性の向上

- ▶ 広域交通機能と連携した多様な交流の促進、市民の移動手段の確保のための中心・周辺市街地の拠点にアクセスできる公共交通(二次交通)の充実
- ▶ 鉄道駅やバス停などの交通結節点の徒歩圏の暮らしの維持、誘導
- ▶ フリー乗降区間の拡大など、既存交通網を活用した公共交通の利便性の向上

・鉄道、バスなどの公共交通にアクセスしやすい区域